

いつやるか？今でしょ！

竹内右京

「いつやるか？今でしょ」と言う言葉、誰もが聞いたことのある言葉だと思います。

その言葉を発言する、つまり今、何をすべきか分かったんでしょう。

なら何時そのすべき事に向かって走り出すのだろうか？

「今でしょ」その様な想いがこの言葉に凝縮されているのだと僕は思います。

挨拶は誰でも平等にしよう、について。

多くの人は小さい頃に「挨拶は元気な声で」と教わりますね。

もちろんそれ自体は間違っではありません。

しかしそれは挨拶にとつて最も大事なことが抜けています。

それは誰に対しても同じように深く頭を下げること。

どこにでもありますよね、例えば働いている会社で偉い人が来ると急にペコペコ頭を下げるくせに清掃員などには鼻であしらうような態度をとったり、さらにひどい人だと無視さえするような人など、平等に挨拶をしな



い人が多いです。

でも偉い人には当然頭を深々と下げなければいけません。

サラリーマン社会なら特にそうでしょう。

この姿をイヤらしい、「打算的」と思わせないためにすべきことはただ一つ同じような挨拶を誰に対してもすることだと思いました。

普段、多くの学生は勉強について「学校でやった受験勉強なんて社会に出たら必要はない」などと思っているはずですが。でも、学校の勉強ってそこまで社会生活とかけ離れているのだろうか。

例えば学校で出されるような問題に「筆者がこう述べるのは何故か」や「何故この事件が起こったのか説明しろ」などと言う問題がありました。

こういう「なぜか？」の問題は全て理由を解答者に求めています。

Aという結果が起こった、その理由は何故なのか、と聞いて、BだからAという因果関係を作り上げることが求めています。

こういう頭の使い方は社会の全ての人に求められています。

大げさでなく僕たちは一生「なぜか」の問題を解かなければいけないと思いました。

Bという原因があるとAという結果が起きる。という法を因果律と言いますが、周囲はこの因果律を血眼になって追い求めて活動しているのです。

例えば「二軒の同じような店が並んでいるのに片方は繁盛しているのもう片方はイマイチ」や「これだけ商品の入れ替えの激しいコンビニで、どうしてジャイアントコーンとガリガリ君は自分の場所を保持できるのか」など。

このように「なぜか」は日常にゴロゴロ転っています。

その「なぜか」は一生現われ続ける。

そして「なぜか」をいつ解くのか、今でしよ。